

「汝、我面（わがかお）の前に、我の外（ほか）、何物をも神とすべからず」

出エジプト記 20 章 3 節と、申命記 5 章 7 節に「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。」と書かれています。

ここには、十戒を与える神と受け取る人間の関係性が積極的に示されていて、他の戒めの基本ともいえます。「神以外のものを神としない」ことを守らないところに、人間の不幸と人間性の喪失があります。創造主であり、主権者なる神様との正しい関係は人間だけではなく、全被造物の回復でもあるのです。

最初の人間アダムとエバに「とって食べてはいけない」とおっしゃった神様の禁止命令がここにもあります。罪とは、神様がしてはいけないと命じたことをすることです。禁止の命令から始まる十戒は、人間の罪を露にすることで、恵みへと私たちを導いてくれます。

主イエスは「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ（マタイ 4:10）」と言われました。造られたものが造ってくださった主なる神を拝み、従うところからすべては始まらなければならないのです。

偶像は実体がない、虚像、幻想ともいえます。虚しいものを崇めることです。造られた人間は神なしでは生きていられない弱い存在で、真の神に帰らないとその代用物を求め、その虚しいものに服従しようとする悲惨さがあるのです。

イスラエルの民がカナンに入った時に、待ち伏せていたものは数々の偶像でした。見える偶像がありますが、もっと深刻なことは見えないものが私たちを捕えている現実です。

その偶像から解放されることは、主イエスと共に歩むことです。真の神を讃美する礼拝に生きることです。それによって、私たちの内外に潜んでいる偶像に勝利することができるのです。私たちの人生は偽りの神々を追放するための戦いの連続ですが、救い主イエスが共におられます。礼拝はその主による勝利を確認し、讃美する場です。真の神を神とする徴です。

*共に祈りましょう。

- ・真の神を讃美し、礼拝し続ける私たちでありますよう主の御導きを祈りましょう。
- ・私たちが神以外の物を神としないように、主の御助けを求めましょう。
- ・虚しい物に捕えられている人々が、真の神に出会うよう祈りましょう。